

学校番号	15	学校名	静岡県立東部特別支援学校	校長名	佐々木 雅則
------	----	-----	--------------	-----	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

(1) 〈守る〉安全で安心な教育環境

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
安全な学校環境の整備				
ア	命を守る 緊急時対応力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して学校生活を送ることができたと答える児童生徒100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急体制訓練他 4回実施 ・注入時発災訓練を 1回実施 ・安全点検を月に1回実施した。 ・日常的に安全な環境づくりを行った 	<p style="text-align: center;">A</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 100% 保護者アンケート 94.8% </div> <p>○訓練や講習会等については計画通り実施することができた。緊急対応や日頃の安全に関する知識や意識を高めることができた。</p> <p>●来年度も今年度並みの計画を考えていきたい。</p> <p>●ヒヤリハットの報告方法は報告が減ったため、ファイルに記入する方法に戻すかどうか検討する。また、ヒヤリハットは、インシデントや事故防止につながる重要なものであることを分掌課員を中心に周知していく。</p>
	適切な判断と行動で安全に支援することができたと答える教職員 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器、緊急時の対応についてのグループワーク、呼吸介助と姿勢についての研修を実施 ・指導医訪問研修 3回実施 ・ヒヤリハット・インシデントの情報共有と速やかな対応策の検討を行った。 	<p style="text-align: center;">A</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 教職員アンケート 97.4% </div> <p>○訓練や指導訪問研修を計画通り実施することができた。医ケアに初めて携わる人にも分かりやすい内容やすぐに実践に活かせる内容に工夫し実施することができた。</p> <p>●注入時発災訓練は1回に減らしたが、多くの教員に取り組んで欲しいため来年は2回にしたい。</p> <p>○インシデントについては、速やかな情報共有を行ったり、対策について検討したりすることができた。</p>	
イ	人権を尊重する教育			

様式第3号

	<p>子どもの人権を尊重した教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる学校生活の中で、友達や教師と関わったり自分や仲間の良さに気付いたりすることができたと答える児童生徒90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部学年で月のテーマに沿ってミーティングを行った。結果を掲示板で共有した。 ・人権教育について、いじめ防止委員会にて、主事・主任に向けて伝達を行った。 ・夏季休業中に外部講師による人権研修を行った。 	<p>A</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 98.7% 保護者アンケート 100%</p> </div> <p>○児童生徒アンケートでは、安心できる学校生活と友達を大切に生活の2つの項目で、「できた」が100%の評価であった。毎月取り組んでいる教職員人権ミーティングで日頃の行動を振り返り、共有したことが児童生徒の安心や他者を認める気持ちにつながっているのではないかと考える。今後も続けていきたい。</p> <p>●一方で、教職員アンケートでは、生活年齢に合わない関わりや「さん」付けが行われていない様子が見られているという声が挙がっている。人権ミーティングで検討項目に挙げている内容について、まだ不十分な点があったことはしっかりと反省をしたい。</p> <p>●来年度の人権ミーティングでは、生活年齢に合った関わりや「さん」づけについて重点的に振り返りを行うようにしたい。また、夏季人権研修で扱う内容についても上記の反省に沿った内容で計画し、より教職員が意識できるようにしたい。</p>
--	-------------------------	--	---	----------	---

(2) 〈育む〉確かな学力や豊かな心と生きる力

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	学び・授業の充実、専門性をいかした肢体不自由教育の向上				
	<p>自分らしく生きていくための学びや経験を促す系統的・段階的な教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来の生活や夢について考えたり、進路について知ったりすることができた児童生徒90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア発達に関する学習会を2回(全体(6月)、学部(9・10月))実施。職員事業所見学を1回(8月)実施。 ・キャリア発達に関する授業実践の紹介(各学部1回以上)実施 	<p>A</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 90.8% 保護者アンケート 98.3%</p> </div> <p>○特に中学部・高等部において、生徒の実態に合わせて進路指導が実施できた。</p> <p>○学部ごとの学習会では、各学部の教職員から聞き取った</p>

					<p>テーマで実施し、ニーズに沿った情報提供・共有ができた。全学部で課長が参加することで、学校全体のキャリア教育の考えを合わせて伝えることができた。</p> <p>●キャリア教育の手引きの見直しや学習会、掲示板などを通じて各学部のキャリア教育やキャリアパスポートの抑えを確認できるようにしたい。</p>
専門性をいかした授業の充実	<p>・個別の指導計画を授業に活用できたと答える教員 100%</p> <p>・「できた、分かったなど喜びのある学びができた」と答える児童生徒 90%以上</p>	<p>・個別の指導計画の活用に関する研修を2回実施（4月、夏季休業中）</p> <p>・自身が指導上必要とする専門性向上に向けた職員同士の学び合いを実施（授業を通じたテーマ検証：通年、研修報告：8月・3月（予定））</p>	A	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 97.4% 保護者アンケート 100%</p> </div> <p>○どの学部も個別の目標を単元ごとに具体化し、授業の中で目標を意識した学習に取り組むことができた。特に中学部では、単元ごとに学部全体で振り返る時間を設け、PDCAを生かした取組ができた。</p> <p>●次年度は、県の統一書式や生成AIの活用など新しい取り組みが導入されるため、教員間で共通理解を深めながら、より効果的に活用できるよう研修を進めていきたい。</p>	
			A	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 98.7% 保護者アンケート 100%</p> </div> <p>○各職員自身がニーズを感じる研修に取り組み専門性をより高められたこと、またキーワードに掲げ還元に至ることを目指して繰り返しグループを越えた共有を図ってきたことで、児童生徒の学びの支えにつながられたと捉えている。今後も専門性チェックシートの項目などから自身のニーズを把握し、個々の研修ニーズは学校の課題でもあるという捉えの下、よりよい集団形成や進め方などの方法を追求しながら児童生徒の学びを支える研修を進めていきたい。</p>	

		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に合った目標や活動内容、支援を設定することができた教員80%以上 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・流れ図研修会を3回実施。先生方の意見を取り入れ、「つながりタイム」の改定を実施。 ・月1回程度、専門性を高めるための情報提供を掲示版にて実施。 ・自立活動の指導について専門家から指導を受ける機会を設けた。 	<p>A</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 98.7% 保護者アンケート 100%</p> </div> <p>○「つながりタイム」を全児童生徒に対して実施することができた。</p> <p>●「つながりタイム」への共通理解をより深められるように必要に応じて改定していきたい。</p> <p>○掲示板を通して専門性を高めるための情報提供を行うことができた。</p> <p>●全体が求めている情報を把握した上で、情報発信をしていきたい。</p> <p>○PT 等の巡回指導や摂食指導において外部専門家から専門的な指導を受けることで、自立活動の指導にいかすことができた。</p>
		<p>体育や音楽、図工美術等の授業に楽しく取り組むことができた児童生徒90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体育、音楽、図工・美術の授業実践と教材教具の情報を掲示板上に掲載 7・10月掲載 ・行事を充実させるための取り組み 学発…より実態に合わせたやり方に変更 プール…小：全学年実施に変更 コンサート…子どもの実態に合ったプログラム編成 	<p>A</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>児童生徒アンケート 100% 教職員アンケート 100%</p> </div> <p>○授業を土台に創り上げる各学部の文化的行事、体育的行事を生徒の実態に合った形にし、児童生徒への働きかけや支援を工夫して充実させることができた。</p> <p>○児童生徒が体育や芸術に関心がもてるように実態を把握したり、アンケート結果を大切にしたりしながら、行事の企画や教材の紹介をしていく。</p> <p>●プールの実施判断が難しい時があったため、判断基準を明確にしていく。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・授業内でICT活用1回以上行ったと答える教員100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・DX だより 毎月1回以上更新（生成AI、機器の紹介、YouTubeの紹介など） ・学部プチ学習会（高は今後実施予定） ・夏のICT研修実施（Googleアプリケーション、ipadの活用について） 		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>教職員アンケート 98.7%</p> </div> <p>○月1回以上の発行をすることができ、生成AI（イラストの出力など）の活用や機器について興味を持ち活用する教師が増えた。</p> <p>●学部規模でプチ学習会を行っていたが、他学部の学習会についても参観できるようにして幅</p>

					広く情報を共有できる環境にしていく。
--	--	--	--	--	--------------------

(3) 〈つなぐ〉 児童生徒の学びと生活を支える連携

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	センター的機能の充実				
ア	児童生徒の学びと生活を支える連携の充実	・ケース会議、校内支援委員会、幼児教室、見学会等を実施したことにより関係機関との連携が深まり、児童生徒の学びと生活が支えられたと感じる保護者、教員80%以上	学校、保護者、関係機関と連携するための会議や委員会等を以下の通り実施。 ①学校見学会1回 ②幼児教室2回 ③教育相談14件 ④関連機関とのケース会議・情報共有17件 ⑤校内支援委員会2件 ⑥伊豆医療福祉センター連絡会 月1回	A	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 教職員アンケート 98.7% 保護者アンケート 96.4% </div> <p>○放課後等デイサービスおよび相談支援事業所を対象に学校見学会を行った。放デイ引き渡し時の新しい駐車方法を周知し、本校の教育活動についても理解を深めてもらうことができた。</p> <p>○学期ごとに校内支援リストを作成・確認し、必要な児童生徒に対して校内支援委員会を開催することができた。</p> <p>○必要に応じて関連機関と連携し、情報共有やケース会議を行うことができた。</p> <p>●今後も児童生徒および保護者の支援ニーズを把握し、関連機関と適切に連携していきたい。</p>

(4) 〈高める〉 教職員が互いに支えあう職場づくり

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	教職員の資質向上				
ア	学び続ける教職員	・授業や行事を参観し、「参考になった」と答える教職員80%	<ul style="list-style-type: none"> 各学部の授業紹介による参観の促し 学部間交流の実施 学部・学年行事等の参観への呼びかけ（学習発表会の校内発表、音楽発表会など） グループ研修の公開案内 	A	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 教職員アンケート 96.1% </div> <p>○約9割の教職員が、学部主事からのお知らせや学部間交流によって、他学年や他学部を参観（参加）する機会が増え、指導の参考になったと答えている。他学年、他学部の授業参観への意識が高まり誰でも行きやすい雰囲気となり、指導の刺激になったり、参考になったりしている。</p> <p>●学年や学部において人を交換する形が、空き時間に行くよりも行きやすい。学部間交流については、時期が遅くなったこ</p>

					とや担当する部署が不明瞭など、来年度に向けて整える必要がある。運営会議で担当部署を決め、早い時期から取り組めるようにしたい。
	業務改善の推進				
イ	働きやすい職場環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・事務職員が校務運営に参画して「教員の業務負担が軽減に繋がった」と答える教員 80% 以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌業務への参加 (DX・生徒指導課) ・放課後等デイサービスの送迎誘導の削減 ・給食の配膳補助 (高等部) ・ホームページの更新 	A	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">教職員アンケート 97.4%</div> <p>○令和8年度から実施する総務事務集中化を先行する形で実施したところ、97.4%の教職員から高評価を得た。次年度以降も継続し、併せて学年会計を教員と協働で取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>○ホームページは保護者及び学校運営協議会から「授業や学校行事などの様子が分からない。」といった声があり始めた。引き続き分かりやすい発信を心掛けたい。</p> <p>●事務集中化後の事務職員定数減が近い将来想定されるため、先行して取り組んだ業務や学年会計に影響が生じる可能性がある。その時は可能な範囲で対応することになる。</p>